

## 整形外科

### 診 療

当科は、骨関節と筋肉などの軟部組織に発生する腫瘍の専門的診療を行っています。骨軟部腫瘍の診断・治療は専門性が高いため、近隣の一般外科、整形外科の先生方と協力して骨軟部腫瘍の疑わしい例を紹介して頂きその中から腫瘍を選別し診療を行っています。従って良性・悪性の診断がつくまで、あるいは悪性と診断された患者さんに対しては、極めて迅速な対応をします。愛知県三河から静岡県西部に至る広い地域から毎年200例を超える骨軟部腫瘍患者の紹介を受けています。年度末には三河骨軟部腫瘍研究会を主催し、紹介症例の経過について報告しています。今年度で19回を数えるまでとなりました。今年度は、名古屋大学形成外科講師の鳥山和宏先生をお招きし、「骨軟部腫瘍における形成外科的再建」という題で特別講演をしていただき、47名の方々に参加していただきました。また、この会では整形外科専門医資格認定の単位を取得できるようにしています。

当科の信条は、初期診断から末期治療まできめ細やかな治療を行うことです。画像診断、病理診断の精度を高めるとともに、手術手技の改良（いかにしたら術後の良好な機能が温存できるか）に努めています。特に、病理診断に関しては、藤田保健衛生大学病院病理診断科の黒田誠教授の協力で、迅速かつ正確な診断に努めています。手術は患肢温存手術を原則としています。特に若年者の骨原発悪性腫瘍手術には加温処理骨と複合組織移植を併用して、なるべく人工関節などの異物を使用しない患肢温存手術を目指しています。がんの骨転移による骨折や麻痺、疼痛に対しては早期の離床を目指し、手術療法も積極的に行っています。抗がん剤治療は適応のある症例には小児から高齢者まで幅広く行いますが、画一的にならないよう患者さんの意向と全身状態に配慮して投与方法を決定しています。抗がん剤を夜間に投与することで患者さんの負担と副作用の軽減に配慮しています。治療初期から末

期まで一貫して緩和ケアを行うよう心がけています。

2008年度の腫瘍症例登録患者総数は、283例で、原発性悪性骨腫瘍が11例、原発性悪性軟部腫瘍が30例、転移性骨腫瘍が13例でした。手術件数は、303例で、そのうち悪性骨軟部腫瘍手術が39例、良性骨軟部腫瘍が136例でした。1994年から2008年までに登録された、初診時に遠隔転移がない四肢発生骨肉腫20例の治療成績は、5年 Overall Survival Rateは89.7%、Disease Free Survival Rateは85.0%でした。1994年から2008年までに登録された、初診時遠隔転移がない四肢体幹MFH34例の治療成績は、5年 Overall Survival Rateは90.8%、Disease Free Survival Rateは78.1%でした。

### 抱 負

---

骨軟部腫瘍症例の紹介数は、毎年200例を越えており、三河地区における骨軟部腫瘍の診療の中心施設として広く認知されてきたと思われまます。今後さらに骨軟部腫瘍の診療に特化し、がん診療の質的向上に努めたい。また、幼小児の悪性腫瘍例や、他の科の連携が必要な症例では、名古屋大学整形外科、愛知県がんセンター中央病院や名古屋大学形成外科との協力体制のもと積極的に取り組んでいきたい。



